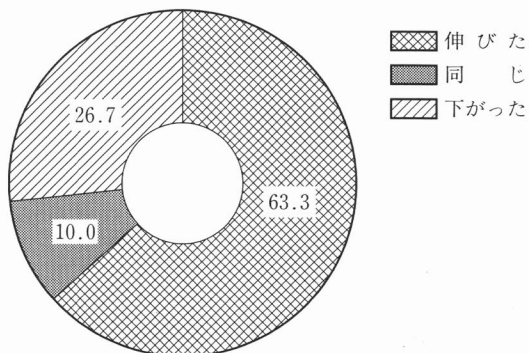


このMSTBにおいては、前記の記録表に記入された測定値を、評価点換算表に当てはめて得点を算出した。

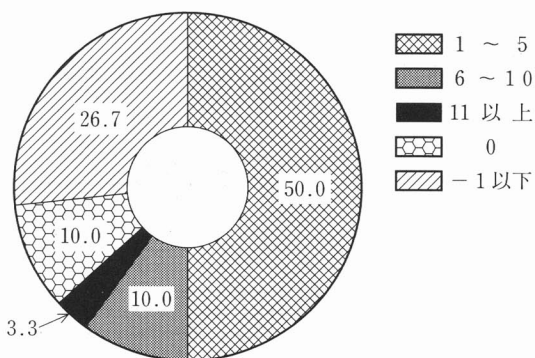
それぞれが最も苦手とする運動属性のMSTBの得点について、事前と事後の変化をしてみると次のようになる。

5. MSTB得点変化 (%)



約三分の二の子どもが記録を伸ばしており、逆に、およそ四分の一は記録を下げています。得点の伸びや下がり方の度合いをしてみると、次のグラフのようになる。

6. MSTBの得点変化の度合い (%)

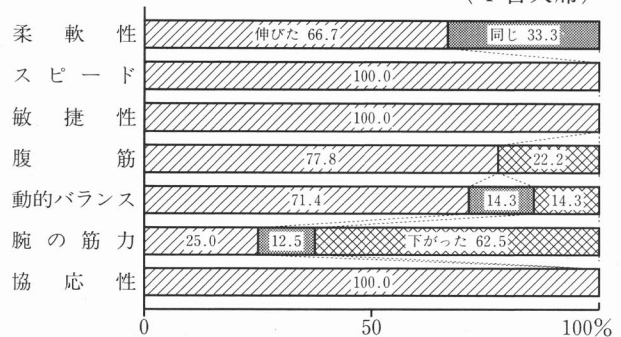


得点の下がった子どもは、全員が-5点までの中に入っており、下げ幅はあまり大きくはないことがうかがえる。ところが、記録が伸びた子ども達の得点は、5点までが全体の半数であり、6点以上10点以下の伸びを示した子が10%もいる。さらに、11点以上伸びた子もおり、全体的に見ると運動能力は着実に向上していると考えられる。

運動属性ごとに変化の度合いをまとめてみると、次のグラフのようになる。

7. 苦手属性のMSTB得点の変化 (%)

(4名欠席)



それぞれの運動属性に取り組んだ人数が違うことを踏まえても、ここに出てきた数値はかなり参考になるだろう。

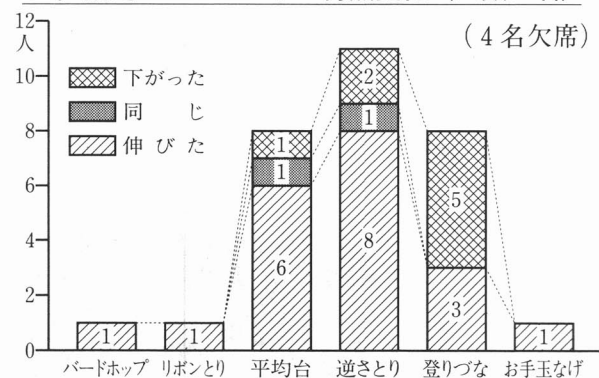
スピードや敏捷性にいたっては100%の伸びを示している。また、腹筋、動的バランス、柔軟性についても70%近く、もしくはそれ以上の子どもが得点を伸ばしている。腕の筋力だけは、記録を伸ばした子が少ないのだが、どの運動属性においても、得点を伸ばした子がおり、1種目ずつ指定した方法は、一人一人に応じた運動能力の育成に、概ね役立ったものと考えられる。

(2) ムーブメントの種目の有効性について

今回選定した7つのムーブメントが、子どもの運動能力の向上に役立ったかどうかを考察する。

8. 指定ムーブメントの得点変化 (人数30名)

(4名欠席)



このグラフでは、ほとんどの種目で得点の伸びが見られるが、登りづなでは得点が低下した子の数が目につく。腕の筋力向上のためのムーブメントとして、登りづなが適当だったのか、今後さらに検証を必要とするが、本実践においては、種目よりも、取り組ませ方に原因があったように思われる。次の学習カードの感想でもわかるように、子どもは揺れる